

#### 第4回 向陽学府小中一体校建設検討会 会議概要

- |   |                      |  |
|---|----------------------|--|
| 1 | 開催日時                 | 令和4年7月25日(月)   |
| 2 | 開催場所                 | 磐田市役所西庁舎 3階 304・305 会議室  |
| 3 | 出席者(向陽学府小中一体校建設検討委員) |  |
|   | 学識経験者                | 千葉大学大学院工学研究科教授   |
|   | 地区代表                 | 向笠地区長 向笠地区住民代表<br>大藤地区住民代表<br>岩田地区長 岩田地区住民代表   |
|   | 保護者代表                | 向陽中学校PTA代表<br>大藤小学校PTA代表<br>向笠幼稚園PTA代表<br>岩田こども園PTA代表                                    |
|   | 学校・園代表               | 向笠小学校長 大藤小学校長 岩田小学校長<br>向笠幼稚園長 大藤こども園長<br>向陽学府CSD  |
|   | 県教委                  | 義務教育課指導監   |
| 4 | 出席職員                 | 教育長 教育部長<br>教育総務課長 教育総務課 施設管理G長<br>学校教育課長<br>地域づくり応援課 課長補佐 福祉課 課長補佐<br>高齢者支援課 地域包括ケア推進G長 |
| 5 | 事務局                  | 学府一体校推進室   |
| 6 | 設計者                  | 株式会社山下設計 3人  |

#### 会議概要

##### 1 教育長挨拶

向陽学府小中一体校は基本設計を進めてきているが、一番初めの打合せは、平成28年の2月の夜に訪問させていただいた岩田小学校である。岩田小学校の子供たちをどうするかが議論のスタートであった。8月には各自治会から、岩田地区を大切にしたいという話を伺った。その際に向陽学府の中で岩田地区について考えていくことが良いと感じた。それから約7年たって基本設計までやってくることができた。ラーニングセンターや学年コモンズ、福祉交流支援室など、これからの学校の在り方を示唆する施設になるのではないかと考えている。これからも様々な意見をいただきながら前進させていきたい。7年4カ月の間、教育長を務めさせていただいたが、7月31日をもって退任させていただく。素晴らしい向陽学府を作っていけるよう皆様のご協力をお願いしたい。

## 2 議事

今回は、はじめに第3回ワークショップの報告をし、そのあと具体的な設計内容について審議し、意見をいただいた。

### (1) 第3回ワークショップの報告

(設計者より)

第3回は向陽学府のコンセプトである「日本一やさしさが育つ学校」をテーマに、特に地域連携、福祉交流などの多機能型施設を活用した計画について議論いただいた。具体的には4つの班に分かれて向陽学府の開校後に、どのようなイベントができるか提案をいただいた。

A班では文化祭、スポーツイベント、防災のイベントの提案をいただいた。

B班では福祉体験を通じて、もてなしを育む場や、外国の文化を知るイベント、防災に関するイベントを提案いただいた。

C班では、昔あそびを教わるイベント、地域の野菜販売のバザーや、小学生に部活動を知ってもらう体験会といった提案をいただいた。

D班では食のイベントやランチルームを活用した文化祭、地域のスポーツ大会を提案いただいた。

柳澤教授からは、こういったアイデアは新しい学校の開校を待たずに実施できるのではないかと、日ごろから行っていく活動が新しい校舎にも引継がれていって日常になることが良いのではないかと意見をいただいた。

(委員長)

文化祭やスポーツイベント、また地域の方と交流する福祉のイベント、部活の体験、食をテーマにしたマーケットなどの提案をいただいた。ソフト面での提案が多かったので、新校舎の完成を待たずに実践出来そうなものはどんどんやっていただいて、新しい場所ができてからはさらに発展していけるとよいのではないかと。

### (2) 基本設計の説明

(設計者)

最初に配置図から説明する。第1回の検討会でご説明させていただいたモデル案をベースに検討を行った。北側に校舎、南側にグラウンドを配置している。駐車場は北東に計78台、北側のロータリーに車いす用駐車場を2台分確保している。南側テニスコートの敷地については西側道路からの出入りに変更し、31台、最大45台を確保し、敷地全体で約120台強の駐車台数を確保している。敷地の周囲はフェンスや門扉で囲ってセキュリティラインを確保している。徒歩で来る児童生徒は西面道路の南北に滞留できるためのスペースを設け、階段で敷地内へ入ることができる計画としている。自転車は現状の正門を活用し敷地内では手押ししてもらう運用を考えている。

新校舎棟とみんなの家は新築建物となる。それ以外のスタジオ棟、アトリエ棟、屋内運動場、武道場については既存施設を活用しながら外壁や屋根の耐久性向上、屋根の断

熱性を向上させる長寿命化改修を行い、利用していく計画となっている。

1階平面図について、モデル案からの大きな変更点を中心にご説明させていただく。昇降口の位置について、当初は南面と西面の2箇所であったが、地域特有の強い風や校庭からの土埃の進入に配慮し西側の体育館と面した位置にまとめて配置する計画としている。体育館との間の学びのモールには採光が確保できる屋根をかけることで、屋内運動場への行き来がしやすくなり、また屋内運動場の控えスペースや、なわとびなどの伝統的な活動ができるのではないかと考えている。

共同調理場について、調理場の使い勝手を考慮し面積を拡大した。そのため理科室3をラーニングセンターの中に配置し、外国語室を3階に配置する計画とした。

ラーニングセンターの光庭は2カ所に分散することで光が各所へいきわたるよう計画した。

ランチルームと家庭科調理室の間は可動のパーテーションとし、別々でも、一体でも使えるよう計画している。

2階の平面計画について、サブアリーナの床は音や振動を抑える2重構造となっている。学年コモンズについてはまとまりのあるオープンスペースに加えて、ゆとりある教材庫と小さな多目的室を併設している。タブレットの充電器や配膳台などは学年コモンズに置いておくことで普通教室を広く使えるよう計画している。更衣室や相談室としても利用可能な教材庫や多目的室を設けている。トイレについては、通常のトイレに加え、ジェンダーに配慮したみんなのトイレを各階に設けている。また、各棟を庇でつなぎ、雨に濡れない動線を確認している。

3階の平面計画について、サブアリーナには舞台を設けていない。そのため3階にはランニングが可能な歩廊や、軽運動が可能なたまり場を設けている。また小中一体校ということでサテライト教員室を設けている。主には高学年の先生が利用できるスペースとして、1階の職員室とは別に設けている。

4階では北側に8年生、9年生の教室を配置している。また西側に屋上広場を設けている。ここでは球技を行うことは想定しておらず、周囲にはフェンスを設ける計画としている。立面、外観のイメージについては模型をご確認いただければと思う。グラウンドから見ると3階建てに見えるよう計画している。

### (3) 基本設計案説明後の審議

(委員長)

- ・上下足については、スタジオ棟やアトリエ棟は上足で行く計画か、補足説明いただきたい。また、2階から降りていく計画か。

(設計者)

- ・基本的には昇降口にて上履きと下足をはき替える想定である。スタジオ棟へは教室のある2階から上足のまま移動できる計画となっている。
- ・普通教室は2階以上に配置しているため、2階から降りていくことを想定している。

また、縁側モールなどは一部床の仕上げを工夫することで、上足で行ける範囲を設けるなど検討していきたい。

(委員)

- ・屋内運動場までの動線について、上下足の考え方を教えてほしい。体育館の入り口はどこか。また屋根のつく範囲はどこからどこまでか。

(設計者)

- ・昇降口から上足で行き来できるような通路を確保したい。上足と下足が交差する部分についても汚れにくくメンテナンスがしやすい仕上げ材を検討する。
- ・現状の入口は、北西の控室となっている部分である。計画案では、体育館の西側、三角形のマークがついている3か所が入口となる。図面上で点線となっている学びモールの上部には庇を設ける計画としている。新しく庇をかける範囲は光が入るよう一部ガラスをいれる計画としている。

(委員)

- ・特別教室の配置について、図工室と美術室、被服室と技術室をまとめて配置したほうが良い。
- ・小中一体校となり、教職員の能力向上も目指していきたい。図工と美術の隣接は職員の見線でメリットが大きい。2-5-2制ということもあるので、小学校、中学校というくくりで配置するよりも、同じ学びの内容でまとめて配置したほうが連携はとりやすくなる。
- ・小学校に教科担任制の乗り入れも出てくる。同じ教科の教室をまとめて配置したほうが良い。

(委員長)

- ・小中一体校では、教科の性質で教室をまとめる考え方と、小中で分けるという考え方、どちらもあるが、今回は小中で連携するなどの運用はあるか。また面積等の制約で室の入れ替えは可能か。

(設計者)

- ・承知した。入れ替えは対応可能である。今後先生方へのヒアリングを実施予定である。引き続き検討する。

(委員)

- ・近年では不登校の児童生徒への対応などが問題になっている。保健室なら来られるといった児童生徒への対応はどのように考えているか。

(設計者)

- ・保健室に隣接したラーニングセンターには、中庭や、個別に相談できるスペースなど児童生徒がそれぞれのお気に入りの場所を見つけられるような居場所を計画している。また相談室の設置や、特別支援教室の前にはカームダウンスペースを設けるなど、気持ちを落ち着けることのできる場所を計画している。

(委員)

- ・地域の住民が学校に来た場合はどこが窓口となるのか。

(設計者)

- ・教職員コモンズの北側、昇降口に面して事務員のスペースを確保している。

(委員長)

- ・専用の事務室は設けず、教職員コモンズのなかに事務員スペースを設けているという認識でよいか。また特別支援教室の東側に地域とある玄関はどのような玄関となるか。
- ・既存の屋内運動場のみを開放する場合は、学びモールから出入りするのか。北側の玄関2つはどのような扱いとなるか。

(設計者)

- ・事務スペースについては、そういった認識でよろしい。当該の玄関は夜間や休日にサブアリーナを開放する際の玄関となる。ここを入口とすることで学校エリアに入らない区画を形成することができる。
- ・屋内運動場のみを開放する場合は、学びモールから出入りする。共同調理場の北東の玄関はゴミの搬出入などのサービス用の出入り口、ランチルーム西側の玄関は職員用の出入り口となる。

(委員)

- ・ランチルームの配置について、地域開放を考えると現状の配置でもよいと思うが、児童生徒が給食を食べるという日常の使い勝手を考えると、共同調理場の近くにランチルームを配置したほうが良いのではないか。

(設計者)

- ・ランチルームは給食を食べる場所として利用する以外に、多目的な利用を想定している。ラーニングセンターに隣接して配置することで、調べ学習や、縦割り班での活動などにも利用する。また向笠小学校のランチルームのように、明るいランチルームにしたいと考えている。校舎の角に配置することで2面採光が可能となる。共同調理場と隣接させた場合は、教室が長細くなってしまうため、現状の計画の方が好ましいと考え提案させていただいた。

(委員長)

- ・ランチルームは外部からの視認性も考慮し現在の位置に計画しているとのことである。ランチルームと共同調理場の距離は、通常のクラスと比べてあまり変わらないので、きちんと運用していけば問題ないのではないか。

(委員)

- ・ランチルームは何名が収容可能か。大型のモニターなどは設置可能か。授業でも使えるとよい。

(設計者)

- ・ランチルーム単体では約 180 名、調理室を含めて約 210 名収容可能である。モニターや、詳細な家具などの備品計画は実施設計で行う。授業でも使う想定はしている。

(委員長)

- ・学年集会や、2 学年の合同授業、イベントなどでの利用を想定しているとのことである。プロジェクターなどの備品や、壁面への投影などを行ってもよい。ランチルーム単体で 1 学年、調理室を含めれば 2 学年で利用可能なスペースを想定しているとのことである。今後検討していただきたい。

(委員)

- ・今回提示していただいた図面は空調の範囲や、太陽光パネルで利用できるコンセントの有無、防災の考え方などが分からない。検討いただいていることがあれば伺いたい。

(設計者)

- ・エコスクールを目指して計画している。例えば、学年コモンズなどは普通教室の空調された空気を流していくことで、快適な環境となるよう計画している。その他詳細についても今後検討していく。

(委員)

- ・避難所の想定を教えてほしい。一週間、また 10 日を超えて避難所指定する場合は、学校とのエリア分けも検討する必要があるのではないかと。隔離できるエリアがあるかどうか。

(事務局)

- ・避難所としては、まずは既存の屋内運動場を開放する。さらに必要であればサブアリーナ、武道場、ランチルームなどを開放することを想定している。避難期間に応じて対応できるよう、危機管理課と調整中である。

(委員)

- ・学年コモンズについて、普通教室を使用しているときに学年コモンズを同時使用することはあるのか。音環境を懸念している。また掲示や展示ができるスペースはあるのか。

(設計者)

- ・普通教室と学年コモンズの同時使用は想定している。そのために、学年コモンズと普通教室の間は、完全なオープンとするのではなく、可動の建具を設け、音環境にも配慮した計画とする。また掲示や展示のスペースについては壁面や、屋外観察テラス側にも掲示壁を設け、スペースを確保していく。引き続き実施設計の中で検討していきたい。

(委員長)

- ・避難所については、屋内運動場、サブアリーナ、武道場、ランチルームなどを開放し、避難期間が長引いた場合は、屋内運動場や武道場などを避難所とし、柔軟に運用を考

えていけると思う。家庭科調理室は炊出しにも活用できるのではないか。学年コモンズは教室と一体的に作るのではなく、閉じられるようになっているため、音の干渉はない。一体的に使いたいときには開けて使うなど柔軟に対応できると思う。掲示板もオープン型に比べて掲示スペースが少なくなるわけではない。可動の掲示板があってもよいかもしれない。家具については今後検討が必要であるが、小学校の低学年と高学年では設えを変えてもよいかもしれない。

(委員)

- ・地域連携室や福祉交流支援室、みんなの家の使い方について、今後の具体的な運用方法についてはどのように議論していくのか。地域のボランティアや通学支援など。方針があれば教えていただきたい。

(事務局)

- ・これまで検討会やワークショップで多くのアイデアを頂いている。施設だけではない運用面についても議論をしていきたい。今後は開校準備委員会を新たに立ち上げ、引き続き議論していくことを予定している。

(委員)

- ・駐輪場について、テニスコートの敷地にある駐輪場は地域の人が来校する際に利用できる駐輪場と考えてよいか。また今回の計画は複数の棟からなり、死角がしやすいのではないかと。防犯の考え方についても教えていただきたい。

(事務局)

- ・駐輪場について、生徒用の駐輪場は武道場の1階に整備していく。テニスコートの駐輪場は、テニス部員が利用する駐輪場である。防犯計画について、今回の計画は限られた敷地の中で既存建物を活かす計画であるため複数棟からなるが、例えば体育館では裏になる面はない。大きな方針としては、これまで通り、教員や人の目での防犯管理を行っていくと共に、ロータリーや駐車場など人の目が届きにくい場所については監視カメラを設けるなどの対策を行っていく。詳細な設置位置については引き続き検討していきたい。

(委員)

- ・避難経路の考え方について、避難階段が少ないのではないかと。西側の屋外階段も共同調理場の裏に出てくるのでは避難しにくいのではないかと。できれば東側にも避難階段を設けたほうが良いのではないかと。

(設計者)

- ・避難階段については各階に2か所以上設置し、建築基準法上の基準は満たしている。また消防法上設置が必要となる避難器具についても適切に設置していくため、避難上は問題ない計画となっている。

(委員)

- ・サブグラウンドについて、防球ネットの位置を東に移動しグラウンドを広く確保し

たほうが良いのではないか。

(設計者)

- ・現在サブグラウンドを計画している場所はもともとプールがあった場所である。当該部分は埋蔵文化財の関係で地面を掘ることができない。記載している防球ネットは既存の防球ネットであり、移設が難しい。また、既存の防球ネットを活かして、低学年の児童が主に利用するサブグラウンドとした。教職員コモンズからはサブグラウンドを監視しやすいよう配置することで、低学年の児童が安全に遊ぶことができる屋外スペースとして計画している。

(委員)

- ・雨の日にはロータリーに保護者の車も乗り入れることは可能か。

(設計者)

- ・乗り入れも想定して計画している。

(委員)

- ・避難器具について具体的に教えてほしい。避難上、8年生9年生問題なく避難できる計算がされているということによいか。

(設計者)

- ・避難器具は、もしもの際に階段で避難ができない場合の補助的な役割を持つもので、3階以上の階に設けられていることがある。バルコニーや廊下の先端から避難器具をおろして避難を行う。器具の種類は複数あるため、安全に避難できる詳細な仕様については実施設計の中で検討していく。避難計画については問題ない計画となっている。

(委員長)

- ・避難器具は通常バルコニーに設置されていることが多い。避難器具の選定は慎重に行う必要がある。法的には二方向避難を確保できる計画となっている。

(委員)

- ・駐車台数の確保について、例えばサブグラウンドの部分を砂利敷きにして駐車場として利用してはどうか。

(事務局)

- ・現在も学校で駐車場が不足した時にはグラウンドを一部開放している。今後も選択肢の一つとして検討していく。

(委員長)

- ・理科室3の採光についてはどのように考えているか。

(設計者)

- ・理科室3については角度を90度回転させ、中庭に面する形とすることで採光面積が確保できるよう引き続き検討していきたい。

(委員)

- ・前回の検討会を欠席したが、プールの方針についてはどうなったのか。

(事務局)

- ・こども園での利用も含め、大藤小学校のプールを利用していく方針となった。

(委員長)

- ・現状の大藤小学校のプールを活用しバスで移動することで活用していくということである。
- ・本日はこれで基本設計案に対する審議を終わりたいと思う。引き続き何かご意見があれば問い合わせていただきたい。
- ・今後のスケジュールについて事務局より説明をお願いしたい。

(事務局)

- ・今後のスケジュールの説明の前に駐車場について、またスクールバスについてご説明する。
- ・駐車場について説明する。駐車場について行事や授業参観等を行う特異日についてまとめた。運動会についてはバスでの送迎や、教職員駐車場に空きスペースを確保するなど、まだまだ検討する必要がある。PTA総会については、小中学校別に開催することを想定している。今後運用面を検討していきたい。テニスコートの横に駐車場を整備するほか、運動場の一部利用を行い、そちらに停めていただく想定である。同様の対応は、合唱コンクールや年数回行う授業参観の時も行う想定である。学年行事については開催方法を検討しながら駐車場も検討していきたい。送迎についてはロータリーやテニスコートの横の駐車場の利用を想定しているが、今後、交通事故を防ぐ運用方法についても検討していきたい。またこれまで通り、相乗りや徒歩、自転車の利用をお願いすることや、学校周辺の駐車場を整備する計画もある。また教職員の縦列駐車での対応や雨天時の運動場の利用など今後学校と協議する中で調整していきたい。
- ・スクールバスについて説明する。画面に岩田・大藤・向笠各地のスクールバス乗車対象となる人数、必要なバスの台数、自治会を記載している。前回提示した運行基準に基づいて算出している。課題もまだまだあると思う。毎年人数は変動しているので、今後も精度を高めていきたい。

#### (4) 今後のスケジュールについて

(事務局)

- ・今後のスケジュールについて、基本設計案を基に教職員の先生方へのヒアリングを行い、実施設計をまとめていく。令和5年度から仮設校舎の建設工事や既存校舎の解体工事などの先行工事を行い、令和6年度から7年度にかけて新校舎の建設工事、既存校舎の改修工事を並行して行う。現時点では令和8年度の開校を想定している。令和8年度以降は、既存校舎の解体工事、及びみんなの家の建設工事、スタジオ棟の改修工事を行う。向陽中学校においては施設の使用制限などご不便をおかけする

こともあるかと思うが御理解と御協力をお願いしたい。また開校準備委員会を立ち上げ、今後も検討を進めていく予定である。設計や整備の進捗状況についてはホームページや回覧等で情報を発信していく。今後も皆様に御意見を伺う機会もあると思うので御協力をお願いしたい。

(教育長)

- ・今後、実施設計に入っていく。様々な意見を頂き感謝している。自治会のみなさまと話し合っって意見を頂いたことを思いだす。山下設計にもよく頑張っていた。校舎の完成までには、まだ時間はかかると思うが、ご支援をお願いしたい。県教委から来ていただいているので一言いただきたい。

(委員)

- ・コミュニティ・スクールの話もあったが、県内でも進んできている。磐田市は既に学校運営協議会ができており、中身がしっかりとしているので、そこに新しい校舎ができてよりよくなっていくと期待している。ありがとうございました。

(事務局)

- ・本日をもちまして向陽学府小中一体校建設検討委員会は最終回となる。半年間、御協力いただき感謝している。引き続き向陽学府小中一体校整備に御協力いただきたい。本日はどうもありがとうございました。